

国際化学肥料ニュース（2023年11月）

肥料業界の2023年11月動態

- * 11月に入って、硫安の国際相場が弱気を示している。最大輸出国の中国硫安は東南アジアと南米からの受注が減り、特にブラジルからの受注がないため、2週間内に FOB 価格が約 30 ドル/トンも下落した。EU は硫安産出量が若干減ったが、需要が多いので、価格が安定している。

下記の表は主要地域の 11 月第 1 週と第 2 週の硫安価格（ドル/トン）を示す。

種 類	11 月 6～12 日	10 月 30 日～11 月 5 日
中国カプロラクタム副生硫安（FOB）	138～145	150～160
中国ブリケット粒状品（FOB）	160～170	175～185
EU カプロラクタム副生硫安粒状品（FOB）	278～338	275～338
EU カプロラクタム副生硫安粉品（FOB）	235	212～233
アジアカプロラクタム副生硫安（CFR）	170～175	182～185
ブラジルクプロラクタム副生硫安（CFR）	175～185	180～185
ブラジルブリケット粒状品（CFR）	190～200	200～205

- * 11 月第 1 週（10 月 30 日～11 月 5 日）は南欧（トルコなど）と南米（ブラジルなど）のバイヤーが購入時期を後にずらすため、尿素国際相場は需給関係が供給増に傾いて、主要輸出地域の FOB 価格が 5～10 ドル/トン下落した。ただし、インドが 12 月に再度尿素国際入札を行う噂があり、サプライヤーが大幅の値下げを拒否した模様。
- * 11 月 8 日午後、中国政府の国家発展改革委員会は主要な尿素メーカーと商社を集めて、国内尿素的安定供給と価格安定について意見交換した。また、メーカーと商社に対して 11 月から 60 日間の「法定検査期間」を厳格に実施すること、来年から輸出数量割当制度を導入することを通達したようである。
8 月に行ったインドの尿素国際入札には中国尿素的の応札量が 112 万トンに達し、9 月の尿素輸出量が 119 万トンに急増し、8 年ぶり輸出数量を更新した。また、10 月に行ったインドの国際尿素入札には中国尿素も 20～30 万トンを落札した噂があり、10 月下旬から中国国内の尿素価格が急騰した。国内尿素的の安定供給を守るために輸出数量を厳格にコントロールする必要を感じたようである。
- * 11 月第 1 週（10 月 30 日～11 月 5 日）のりん安（DAP、MAP）国際相場が若干上昇した。インドの RCF 社と NFL 社はヨルダンと中国からそれぞれ CFR590 ドル/トンで DAP の輸入契約を締結した。また、パキスタンも CFR610 ドル/トンで中国から DAP の購入契約を結んだ。インド RCF 社は 11 月 11 日に別の DAP 入札を締め切り、12 月 10 日まで輸出するように要求する。

西半球では MAP の需要が旺盛で、ロシアの MAP 輸出量が減ったため、CFR ブラジルの MAP 価格が 5 ドル/トン上がった。ただし、アメリカは国内需要不足で、11 月 DAP の FOB 価格が 523~540 ドル/トン、MAP の FOB 価格が 600~635 ドル/トンで若干下がった。

- * 11 月第 1 週のアンモニア国際相場は季節要因が需要を抑えているため、7 月からの上昇傾向と打って変わって、4 か月ぶりに値下げ傾向が見られた。

西半球では、市場はプラントの再稼働により前月よりもはるかにバランスが良く、欧州や北アフリカでは大規模な生産能力削減の兆候がないため、価格下落圧力が生じており、アルジェリアでの 11 月のスポットセールは前回取引より 20~25 ドルの割引で合意された。

東半球では、北東アジア（中国、韓国、日本）では工業受注が低迷し、アンモニアを原料とする下流プラントの改修が行われるため、年末の数カ月間は伝統的にアンモニア価格が低迷するが、今年も例外ではなく、需要が減る見込みである。オマーンとインドネシアの輸出中心の工場が今月後半に生産再開され、年内から 2024 年にかけて価格下落の傾向がさらに強くなる。

- * ロシア政府は 2023 年 12 月~2024 年 5 月の半年間の窒素肥料と化成肥料の輸出割当数量を決めた。政府のホームページに掲載されている通告によれば、窒素肥料（尿素、UAN、硝安）の輸出割当数量 980 万トン、化成肥料輸出割当数量 715 万トンの合計 1695 万トンである。なお、現在（2023 年 6 月~11 月の半年間）実施している輸出割当数量は 1630 万トンである。

- * 11 月第 2 週（6~12 日）の尿素国際相場は引き続き下落している。ブラジルとアメリカの需要不振で、北米と南米向けの尿素価格が先週より 15~20 ドルも下落している。ヨーロッパも尿素購入の動きが少なく、中東とアジアの FOB 価格が小幅に下落した。尿素の不振に連れられ、硫安の FOB 価格も約 10 ドル下落した。

- * ブラジルは 2022 年高騰した大豆相場を受け、大豆栽培面積を増やしたため、MAP の需要が非常に旺盛になり、2023 年 1~9 月の MAP 輸入量が 14%増の 385 万トンに達した。そのうち、アメリカからの輸入量が 34%減の 19 万トン、中国からの輸入量が 26%減の 11 万トンになったが、ロシアからの輸入量が 28%増の 185 万トン、モロッコとサウジアラビアからのそれぞれ 19%増の 105 万トンと 17%増の 65 万トンになった。

- * ラオス政府は 10 月から加里肥料の輸出に 7%の輸出関税を徴収することを決め、即日から実施した。2010 年から中国系企業がラオスに進出して加里鉱山を開発し、2023 年

現在すでに年間 350 万トン塩化加里の生産能力を有するようになった。しかし、加里資源の開発から生産まではほとんど中国人労働者が従事するため、地元利益還元が少なかった。ラオス政府はそれを是正するために輸出関税を設けるといふ。

- * アメリカの CF Industries 社は Incitec Pivot Limited からルイジアナ州 Waggaman にあるアンモニア工場とその関連資産を 16 億 7500 万ドルで購入することを発表した。Waggaman アンモニア工場は年間アンモニア生産能力 80.2 万トン、買収は 2023 年 12 月 1 日付で完了する予定である。

- * 中国税関の速報によれば、2023 年 10 月の中国化学肥料輸出量 310 万トン、前年同期より 5.8% 増である。その内訳は尿素が 60% 増の 56 万トン、硫安が 4.2% 増の 148 万トン、DAP が 12% 減の 44 万トン、MAP が 11.1% 減の 16 万トン。
一方、10 月の中国化学肥料輸入量が 98.3% 増の 117 万トン。その内訳は塩化加里が 117.6% 増の 108 万トン、NPK 化成肥料が 133.3% 増の 7 万トン。

- * 11 月上旬、中国政府の発展改革委員会はりん安（DAP と MAP）の輸出「法定検査」を一時停止すると決定した。それにより、11 月 13 日から中国税関は DAP と MAP の新規輸出の申請受付を停止した。再開時期が不明である。ただし、中国メーカーは 2023 年第 4 四半期のりん安輸出割当数量の枠はほとんど使い切っており、12 月末までの輸出に大きな支障が出ないが、2024 年第 1 四半期の輸出に悪影響を及ぼす見込みである。

- * 11 月第 3 週（11 月 13～19 日）の尿素国際相場はアメリカ、南米、南アジアなど主要輸入地域の需要不振で、ほぼ全面的に 10～25 ドル／トン下落した。ヨーロッパの 2 カ所尿素プラントがメンテナンスと故障で稼働停止になっても、相場の弱気を喰いとめることができなかった。尿素の不振に連ねて、硫安も 10～20 ドル／トン値下げした。

- * 尿素の国際相場の低迷に連れられて、10 月末から硫安の国際価格が急落した。中国産硫安は 10 月中旬に FOB 180 ドル／トンに達した後、この 4 週間だけで 80 ドルも下落した。11 月 27 日インドネシア Pupuk 社は 2024 年 1 月初旬以降に輸入予定の 3 回に分けて 2.5 万トンずつ計 7.5 万トンのカプロラクタム副産硫安の国際入札の開札結果には、最低応札価格が CFR120 ドル／トンで、CFR121.80 ドル／トンを含むと、応札数量が 7.5 万トンを大きく超えた。ただし、硫安の価格がすでに底に到達して、これから低位安定かやや上昇に転じると想定する関係者が多い。

- * イスラエルとハマスの武装衝突で高騰した塩化加里の国際価格が 11 月中旬から値下げ傾向に転じた。10 月末に比べ、11 月下旬現在は約 20～30 ドル／トンも下落した。そ

の理由は主な消費国の塩化加里在庫量の増加と需要の低迷である。11月1日現在、中国は最大の塩化加里輸入国として、港にある塩化加里の在庫量が302万トン、インドも港在庫量が100万トンを超えた。ブラジルは第2位塩化加里輸入国として、2023～2024年度の大豆播種が遅れて、塩化加里消費量が減少した。

- * 11月第4週（20～26日）の尿素国際相場の下落が継続した。需要不足で各主要尿素メーカーは12月生産分の販売に必死である。中国政府の尿素輸出規制は相場にほとんど影響せず、特にCFRブラジルは1週間だけで50ドル/トンも急落した。
- * インド政府化学肥料省の発表によれば、新規プラントと増設プラントの稼働で10月のインド国内尿素生産量が385万トン、月生産量の最高記録を樹立した。11月と12月もほぼ同じ数量の尿素が生産されるという。これにより、インドが新しい尿素国際入札を行う可能性が低くなると推測される。
- * 11月24日、中国の中農グループや中国化学工業など国営尿素メーカーと商社15社は2024年の尿素輸出自主規制協定を締結した。輸出量を94.4万トン以内に抑えるという内容である。通常、尿素メーカーと商社は尿素を輸出する場合は事前に工場での「法定検査」が必要であるが、この15社は国営企業であるため、港で「法定検査」を申請・実施することができるので、大分優遇されている。
- * 尿素国際相場の下落を受け、11月第3週と第4週の硫安国際相場も急落した。最大輸出国の中国硫安は東南アジアと南米からの受注が減り、特にブラジルからの受注がないため、2週間内にFOB価格が10～20ドル/トン下落したが、ブラジルでは販売不振でCFR価格が30ドルも下落した。EUは硫安産出量が若干減ったが、需要も減ったため、価格が10～20ドルほど下がった。

下記の表は主要地域の11月第3週と第4週の硫安価格（ドル/トン）を示す。

種 類	11月20～26日	11月13～19日
中国カプロラクタム副生硫安（FOB）	125～130	135～140
中国ブリケット粒状品（FOB）	145～155	155～160
EUカプロラクタム副生硫安粒状品（FOB）	261～337	278～338
EUカプロラクタム副生硫安粉品（FOB）	196～224	205～239
アジアカプロラクタム副生硫安（CFR）	150～162	150～162
ブラジルカプロラクタム副生硫安（CFR）	145～155	155～170
ブラジルブリケット粒状品（CFR）	160～170	180～185

- * 中国政府は尿素の国内安定供給を目指すため、11月から輸出時の「法定検査」を60日ワーキングデーにすることを決めた。その影響により、基本的に12月の尿素輸出が不可能となり、すでに港に運んだ輸出向けの尿素が国内に還流し始めている。11月26日現

在のデータでは、中国尿素メーカーの在庫量が前週より 17 万トン増の 51 万トン、港在庫量が逆に 1.4 万トン減の 30.2 万トンとなっている。また、2024 年第 1 四半期に尿素輸出申請を許可しない噂さえある。

大手各社の営業業績

- * カナダの Nutrien 社は 2023 年第 3 四半期の業績を発表した。7～9 月の加里肥料販売量が 23%増の 389.5 万トン、窒素肥料販売量が 11%減の 238.7 万トン、リン酸肥料販売量が 4%増の 66.4 万トン。肥料価格の下落で、売上高が 31%減の 56 億 3100 万ドル、粗利が 50%減の 16 億 2700 万ドル、EBITDA が 56%減の 10 億 8400 万ドルの減収減益である。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * バングラデシュの Ghorasal 尿素工場が 11 月 12 日から正式に稼働する。当該尿素工場は首都ダッカ北東 30km 離れた Ghorasal 地域にあり、日本三菱重工業が設計と設備製造、中国化学工程社が基礎建設と設備の据え付けを担当する。年間尿素生産能力 92.4 万トン、東南アジア最大の尿素工場となる。
- * ドイツの Uhde GmbH 社とメキシコ Proman 社はメキシコのシナロア州トポロ・バンポに 2200 トン/日のアンモニアプラントを建設することで合意した。生産したアンモニアは主に肥料生産に供する予定である。
- * スウェーデンの Cinis Fertilizer 社はアメリカケンタッキー州に硫酸加里のプラントを建設することを決定した。当該硫酸加里プラントは年間生産能力 30 万トン、ケンタッキー州 Hopkinsville 市に建設し、2025 年に完成する計画である。
- * 日本の東洋エンジニアリング社はインドネシア南スマトラ島 Kota Palembang 市にある Pupuk Sriwidjaja Palembang 社の PT Pusri 工業団地に新設予定の Pusri-IIIB アンモニアと尿素プラントの尿素プラントのライセンスと設備を供給する契約を締結した。Pusri-IIIB プラントは年間アンモニア生産能力 445,500 トン、尿素肥料 907,500 トンと計画され、TOYO の最先端尿素合成技術「ACES21-LP」に初めて対応する設計である。
- * オーストラリアの Perdaman Chemicals and Fertilizers 社とイタリアの Saipem 社は合弁で西オーストラリア州 Karratha 市に世界最大級の窒素肥料工場を建設する。設計生産能力は年間 230 万トン尿素と硝安、総投資額 4 億ドル、3 年後に完成し、稼働する予定。

その他

- * 11月6日、アメリカ商務省はロシアとモロッコから輸入されるりん酸肥料に対するアンチダンピング関税の第1回年次行政審査の最終結果を発表した。ロシアの PhosAgro 社に対してアンチダンピング関税を 9.19%から 28.50%に引き上げ、モロッコの OCP 社に対して 19.97%から 2.12%に引き下げることを選定した。OCP 社はアメリカ商務省の決定に歓迎の意を表明し、PhosAgro 社はまだコメントを出していない。一方、当事者のアメリカ Mosaic 社は OCP 社のアンチダンピング関税の引き下げ決定に不満を表明した。

- * カナダの肥料メーカーと流通業者が加盟している肥料カナダはカナダ港湾労働者の組合 International Longshore and Warehouse Union (ILWU) とセントローレンス海路管理公社 (SLSMC) の間に合意した新の労働協約に歓迎する声明を発表した。10月22日から始まったセントローレンス海路（大西洋から五大湖のスペリオール湖までの運河網）のストライキがこの合意により終結し、セントローレンス海路が10月30日から再開される。これによって、カナダ東部地域の肥料の輸入輸出が正常化される。

- * カナダの CoteX Technologies 社と Nutrien 社が提携して、生分解性物質のコーティング技術を窒素肥料に応用するための共同商業化を検討する覚書を締結した。CoteX Technologies 社はカナダのノバスコシア州にあるスタートアップ企業で、低コストでカスタマイズ可能な放出制御肥料 (CRF) コーティング技術を開発した。

- * 11月17日、中国窒素肥料工業協会は会員企業に対して、尿素の増産と価格の安定、輸出の削減を要請する。その要請の主な内容は① 会員企業は率先して尿素生産を増やし、買いだめや売り惜しみの行動をしない。② 工場出荷価格は11月16日の価格を超えないように抑える。③ すでに輸出の「法定検査」を申請したが、まだ許可されていないすべての申請を取り下げるほか、港に運ぶ途中の尿素、またはすでに港に到着して輸出に備える尿素を引き揚げる。
また、中国窒素肥料工業協会は 2024 年から企業による社会政策の実施を確立するとともに、尿素の輸出自主規制の基盤を整備することも発表した。